



北海道 SDGs 推進プラットフォーム通信 第 1 号

-第 1 回 SDGs 研究会報告-

北海道 SDGs 推進プラットフォーム事務局

2019 年 10 月 28 日 発行

【研究会概要】

- (1) 日時 2019 年 10 月 18 日 (金) 14 時～
- (2) 会場 TKP ガーデンシティ PREMIUM 札幌大通
- (3) 講演



企業がSDGsに取り組むべき理由とその手法

・田瀬 和夫 氏
SDGパートナーズ(有)
代表取締役CEO



北海道におけるSDGs
それぞれが望む社会に向けての
きっかけ

・山中 康裕 氏
北海道大学大学院
地球環境科学研究院 教授



持続可能な地域社会の
実現に向けて
～SDGs未来都市しもかわ～

・寰島 豪 氏
下川町政策推進課
SDGs推進戦略室 室長

■ 基調講演

企業が SDGs に取り組むべき理由とその手法 田瀬 和夫 氏 (SDG パートナーズ(有)代表取締役 CEO)

1. SDGs が企業に求められる理由 (ビジネスを根底から変えていこうとする動き)

ビジネスの土台強化 : SDGs が実現される世界=経済活動ができる世界

新たなビジネス機会の獲得 : 再生エネルギーと電気自動車市場は 1 兆ドル規模=取り入れない理由がない

事業上のリスク排除 : ルールでありリスク管理の方法、企業評価の低下を防ぐ

【SDGs への紐付け】

新しいことをやらなくても、
今までやってきたことが
SDGsだと企業が気付く

しかし

SDGsでどうやって儲ける
か?という経営戦略に
つながらない

そこで

3つの思考を元に、事業と
SDGsへのマッピングを行い、
経営戦略へ取り込む

2. SDGs を経営戦略に取り込む3つの新しい思考

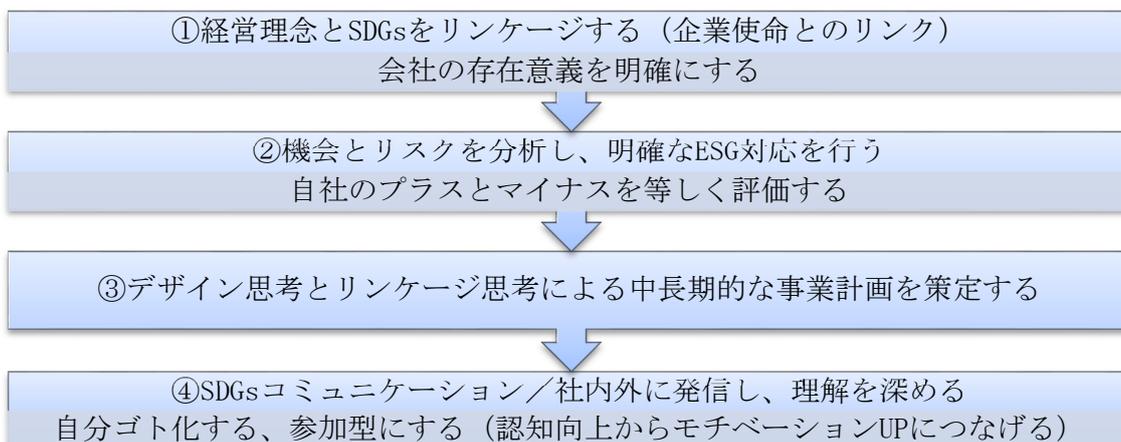
<p>時間的逆算思考 (ムーンショット理論)</p>	<p>将来の理想の姿を想像し、そこから逆算して目標を立て、実践すること (バックキャストイング)</p> <p>例：マラリアを予防するための蚊帳を長期間大量に購入するのではなく、マラリア根絶のための事業戦略と手段を講じる。</p> <div data-bbox="1085 219 1460 481"> <p>SDGsのムーンショットを活用した計画プロセス</p> <p>SDGsで示すムーンショット(壮大な目標)</p> <p>バックキャストイングによるアクションプランの立案・実施</p> <p>現時点での到達点</p> <p>Goal</p> <p>Time</p> </div>
<p>論理的逆算思考 (演繹的イノベーション)</p>	<p>論理的な解決施策を実施することで、根本原因の解消となるイノベーションにつなげること (デザイン思考とシステム思考を複合的に取り入れて実践する)</p> <p>例：ノボ・ノルディクス社(デンマーク)</p> <p>従来の発想：治療薬を提供することで継続的に大きな利益を上げていた。 現在の発想：SDGsの実践からより良い社会のために病気そのものを撲滅するための取組みを行っている。</p>
<p>※デザイン思考(逆算) ※システム思考(積み上げ)</p>	<p>直感・感性・共感などを発想の源とする、「いいね」の思考 論理・構造・分析 ” 、「正しいかどうか」が重要</p>
<p>リンケージ思考 (レバレッジ・ポイント理論)</p>	<p>梃子の力点を押すことで、一気に様々な状況の改善につなげること (SDGsはそれぞれの目標が相互に結びついているため)</p> <p>例：学校給食の支援→登校児童の増加→子どもの健康改善 →就業機会の増加→人生の選択肢増大→貧困層の減少</p> <div data-bbox="1305 1079 1481 1160"> <p>SDGsドミノ</p> </div>

3. 企業がSDGsに取り組むべき理由

企業はすべからず金を稼ぎながら善を成すべきである

<p>新市場である (SDGsは世界・社会の変化を先取りするもの)</p>	<p>顧客が求めている (SDGsに適った製品・サービスが求められる)</p>	<p>人材を確保するため (学生が職場に求める理由の93%が社会にどのくらい役に立つか)</p>
---	---	--

⇒ SDGsに取り組むためのプロセス



4. SDGs が目指す世界（ウェルビーイング well-being）

- ⇒ 世代を超えて／すべての人が／自分らしく／よく生きる（すべての人が人生に選択肢を持つ）
- ⇒ （企業）社会的存在意義パーパスを明確にし、利益と社会への善の両方を実現する

■ 研究報告

北海道における SDGs：それぞれが望む社会に向けてのきっかけ

山中 康裕 氏

（北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授）

1. 道内の企業がもつ SDGs のイメージ

SDGs はグローバル企業が行う先進的で創造的な取り組み・・・中小企業は関係ない！と思いがち。

道内 15 万事業所のほとんどが中小企業 ⇒ 小規模事業所の方が全員で事業計画を共有しやすい

2. 様々な調査結果から見えてきたこと

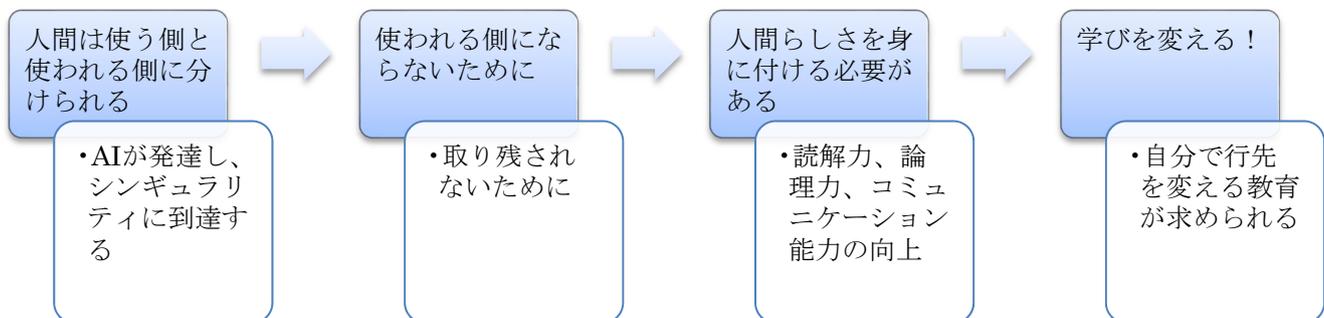
- ①北海道を訪れる外国人観光客へ、北海道の魅力調査
- ②地域公共交通機関利用者へ、利用目的・頻度などの調査
- ③道内の小中学校へ、スキー授業の実施回数などの調査
- ④道内のスキー場経営者へ、規模と設備環境の調査

社会の変化によって、経済成長の恩恵を受け
きれず格差が広がった

すでに取り残されている！

3. SDGs が目指す世界とは？

①AI と人間が共存する社会ではないか？



②どんな学びが必要か？

探 究	学ぶ力	対 話	多様な考えを聞く	} <u>人間にしかできない力</u>
	考えを深める力		自分の考えを受け取る	

■ 事例報告

持続可能な地域社会の実現に向けて～SDGs 未来都市しもかわ～

箕島 豪 氏

（下川町政策推進課 SDGs 推進戦略室 室長）

1. 下川町のこれまでとこれから

①環境未来都市としての下川町（第 1 回ジャパン SDGs アワード（内閣総理大臣賞）受賞）

：循環型森林経営システムを構築（伐→植→育→伐）し、SDGs 実践モデルとなるバイオビレッジを創立
→人口減少の緩和や移住者の増加など、新しい人の流れが創出され、高齢化率の減少につなげる

②SDGs 未来都市としての下川町

2030年のありたい姿（vision）を定め、地域住民が中心となって「下川版 SDGs」を開発
実現のためのレバレッジポイントとして、経済・社会・環境の統合的な取り組みを推進する

2. 多様な主体とのパートナーシップ

①地域住民と本気で未来の vision 作りを行い、

自分たちの地域を見つめ直す機会を持つ

⇒自分ごととして捕えることで、

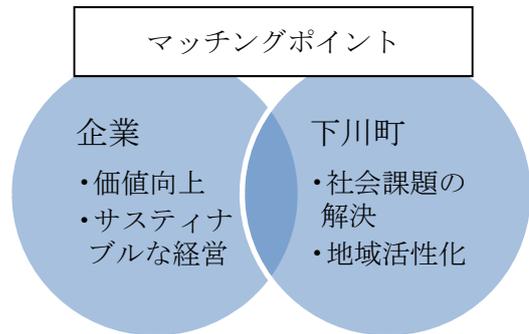
「誰一人取り残さない」に独自変化・昇華

②住民・企業・団体・行政との連携で、

お互いが補完し、支え合える共創関係に

：SDGsには接着剤として様々なものを結びつけるパワーがある

③SDGsを取り入れるメリット



地域活性化や地方創生につなげる

- ・チェックリストとして活用し、地域を見つめ直すことによる新たな気付き
- ・未来から現在を見て手を打っていく、バックキャストのまちづくり
- ・ブランディングを行って社会に発信することによる、下川町ブランド力の向上
- ・パートナーシップによる新たな出会いと発展